

1.1. 出席者

(1) 運営指導委員

氏名	役職	第1回	第2回
川嶋 太津夫	大阪大学高等教育・入試研究開発センター長 特任教授 :運営指導会委員長	-	-
樽林 陽一	神戸大学 大学院医学研究科 AI/デジタルヘル科学分野 特命教授	-	-
樋口 保成	神戸大学大学院理学研究科 名誉教授	○	web
貝原 俊也	神戸大学大学院システム情報学研究科副研究科長 教授	○	web
陳 友晴	京都大学大学院エネルギー科学研究科 助教	○	web
蛭名 邦禎	神戸大学 名誉教授	-	○
吉田 智一	シスメックス株式会社 中央研究所長 兼 MR事業推進室長 執行役員	○	web
蔭木 作幸	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 主任指導主事	○	web

(2) 神戸高校

校長 世良田 重人, 教頭 長澤 広昭, 事務長 藪本 喜武, 特任専門官 佐野 正明
 総合理学・探究部 繁戸 克彦, 岡田 和彦, 中尾 肇, 中澤 克行

1.2. 内容

(1) 第1回 令和3年7月19日(月) 本校会議室A 17:00~19:00

委員は、第2学年の課題研究プログレスレポートに参加、その後、運営指導委員会を行った。

① 課題研究プログレスレポート、課題研究について

- ・課題研究の推進について、産業人OBネットなどの地域の外部支援者の活用や本校卒業生の活用などについても説明した。線表の作成でバックキャストを想定させることで意味のある取り組みだと評価をいただいた。

② 普通科の探究活動の変更 1年間(2学年:3単位)を2年間(1学年:1単位 2学年:2単位)とする。探究活動の充実を図ることを説明した。

③ 基礎枠第4期の文部科学省中間評価結果について

- ・昨年度の中間評価の結果について説明した。取り組みの改善点を指摘された点について意見を聞いた。指摘された8つの力の中の「問題を発見する力」は生徒へ例示することで理解できることや、その力については個々の課題を含めた取り組みや卒業生の動向からも説明できる等の助言をいただいた。

④ 今年度の活動状況

- ・基礎枠は、校外での活動制限と校内での活動の充実として、SSH特別講義の回数を増やし充実させること、科学博物館のネット展示などを企画してはとの意見も頂いた。
- ・重点枠では、「Science Conference」(7月17日)は県内2カ所の分散会場で実施する予定のこと、「第14回サイエンスフェアin兵庫」(令和4年1月30日)は口頭発表で現地開催にて実施する予定のこと。理数教育と専門教育に関する情報交換会を10月17日に本校で開催することなどを説明した。

(2) 第2回 令和4年2月9日(水) 本校校長室 16:30~17:30

委員は、SSH課題研究発表会に参加、その後、運営指導委員会を行った。

① 課題研究発表会

- ・質問がいいもので、的を射たものが多かった。研究内容は面白いものが多かった。ただ、タイトルの付け方がうまくないものがあつた。研究の位置づけがわからないものもあつたとの意見を頂いた。
- ・生徒へのフィードバックのタイミングが大事、計画を立てた時点で評価をフィードバックする。そうすることでグループの中で評価、感度も進むのではないかと、企業の場合はプロジェクトのメンバーが評価かをしていくので、自己と他者の各々の評価があるので良かったとの意見も頂いた。
- ・課題研究の要旨集はどれくらいの期間でつくるのか。文章力は大変、一語一句が大事、3年生に向けて、ブラッシュアップするのか。文章のスキルレベルも大事になるとの意見を頂いた。

② 中間評価の指摘事項

次回の5期目に先導的改革方または認定枠について議論をした。

③ その他

- ・ルーブリックの可視可、グループでの評価を考える。
- ・サイエンスフェアは対面でやるためスキルが上がる。発表の機会が少ない中で、兵庫県全県の他校のリーダーになってほしいとの要望も頂いた。

第1回会議資料

2021運営委員会第1回議題.pdf 2021運営委員会第1回次第.pdf SSH中間評価資料.pdf 第14回サイエンスフェアin兵庫実施要項.pdf 第12回高等学校における理数教育と専門教育に関する情報交換会募集要項.pdf

第2回会議資料

2021運営指導委員会第2回議題.pdf 2021運営委員会第2回次第.pdf